

令和8年度 地域連携アクティブスクールの入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 32

千葉県立船橋古和釜高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

自立した社会人になるために高校進学を強く望み、入学後はルールを守り、学校の指導に素直に従い、かつ、次のいずれかを満たす生徒

ア 学習活動・特別活動等に意欲的に取り組み、地道な努力ができる者

イ 中学校在学時に部活動等に積極的に参加し、本校の部活動を3年間継続して行う強い意志がある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	3教科(国語・数学・英語)の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 検査	学校が定めた次の検査の結果
① 面接	受検者1名・評価者2名の個人面接 検査時間：1名7分
② 作文	字数：301字以上400字以内 検査時間：30分
(4) 志願理由書	志願者の直筆による「志願の理由」及び「自己アピール」

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔300点満点〕

評価項目	評価基準
ア 3教科の得点合計	3教科(各教科100点満点)の合計300点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔180点満点〕

アの数値に、イについて加点(上限45点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 特別活動の記録、部活動等の記録及び特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動及びその他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については45点を上限として加点する。

(3) 検査〔190点満点〕

① 面接〔160点満点〕

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、

s(特に優れている)・a(優れている)・b(標準的である)・c(標準には足りない)・

d(問題がある)の5段階で評価する。

sを20点、aを15点、bを10点、cを5点、dを1点とし、2名の評価者の評価(各80点満点)

を合計し、得点化する。どちらかの評価点が5点未満だった場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 意欲	本校での学校生活(学び直し、キャリア教育等)に意欲的に取り組もうとしている。
イ 規範意識	規範意識を身に付け、本校の指導に素直に従う意識が明確である。
ウ 言葉遣い・応答の的確さ	質問内容を理解し、適切な言葉遣いで、的確に回答することができる。
エ 服装頭髪・態度	服装等が端正で乱れがなく、面接に臨む態度が適切である。

② 作文〔30点満点〕

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、

a(満たしている)・b(満たしていない)の2段階で評価する。

2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ(A:aa~D:bb)で得点化する。

2名の評価者の評価(各15点満点)を合計し、得点化する。

作文が白紙だった場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 内容	与えられたテーマについて内容が適切である。 (301字以上 400字以内)
イ 字数	指定された字数に対して過不足がない。

ア 内容	イ 字数	得点
a	a	A 15
a	b	B 10
b	a	C 5
b	b	D 1

(4) 志願理由書

評価項目	評価基準
ア 志願理由	本校を志願する理由を確認し、総合的に判定する際の参考とする。
イ 自己アピール	特に優れた内容等を確認し、総合的に判定する際の参考とする。

4 選抜方法

本校の「期待する生徒像」に基づき、「学力検査（3教科）の得点」、「調査書の得点」、「作文の得点」、「面接の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、原則として、募集人員までを入学許可候補者とする。

※ また、検査当日、特に問題のあった者については、別途審議するものとする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点		検査の得点		総得点
	評定	加点	面接	作文	
300点	135点	45点	160点	30点	670点